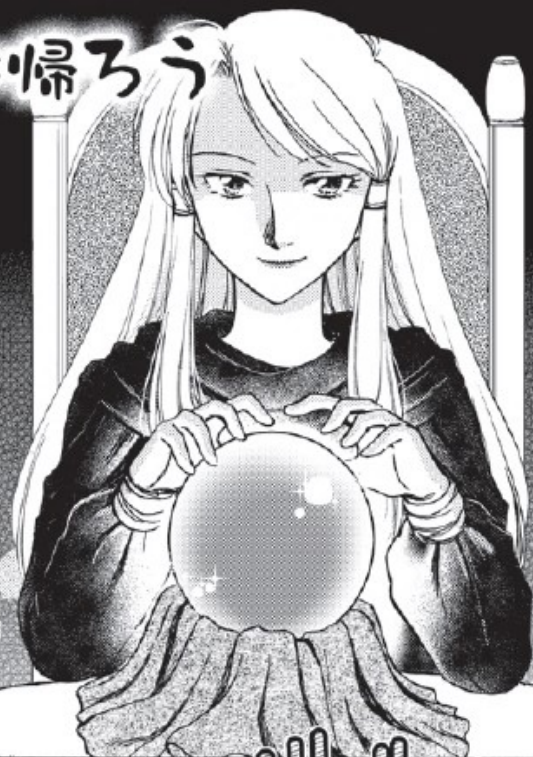


地元に帰ろう
ふしみゆり

私は占い師
サラ

得意分野は
恋愛占いです



ねーさーん
サラ姐さーん



最近はドギ専属に
なりつつあります

今日も
来やがった

チッ

昨日 廃坑の奥まで
行っただとよー
見つかなかったぜ

俺の
運命の女!!

あらそう
残念ね



あなたは占いで
彼女探しながら
向かないのかもネ

何言っただよ
プロだろ
姐さんは





せめて背格好を
占ってくれよ
探しようがないよ

わかったわ



髪は長いわ
そうね…腰よりも
長い…

顔立ちが
整った清楚な
美女…

真夏でも
スソの長い服を
着ているわ…



それって

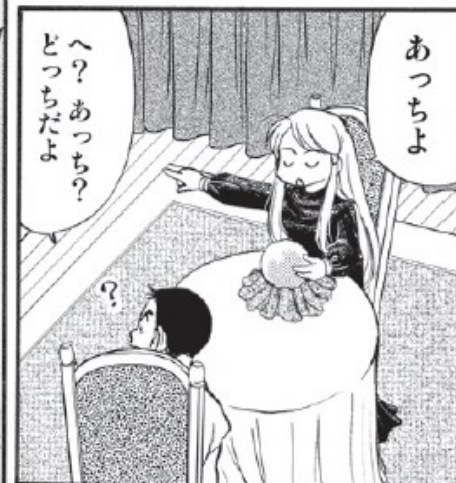
姐さんの
ことか？



まさか
ダームの塔かっ!?

まあ…

あっちとしか
言えないわね



あっちよ

へ？あっち？
どっちだよ



はっ



あなたには
危険すぎる
ミッションよ
あきらめなさい

ややる
俺は
やるぜっ



俺はやるぜ——っ!!

くまなく
じっくり
見つかるまで
探さない



その人は純白の
服を着ているわ

へー
そっか…



で
どこに
いるんだ
その女は！
この街か？
ゼビウクの
村か？

わ
わ

え
——と…



ドキ
あのさ...



3日後
プロマロック行きの
定期便が
復航するだろ
僕は
それに乗って
ここを出るよ

何...!?



バカ野郎っ

ただ細かな道は
わからないから
ドキに聞こうと
思っ



前に故郷の話をして
くれただろあの時から
興味が出ていたんだ
調べていたんだ

火山が
どうしても
見たくつてさ



俺の運命の女は
女神様
だったんだ

...と
いうワケで



何がって

長〜い髪
純白ドレスの美女
あっちって言うから
ダームの塔かと思っただ
神殿もあるだろう

何がどうなって
そーなったんだ!?



俺とアドルは
恋のライバル
だったんだな!

イースIIの
EDを見て
なかったのか?

だから俺今度
女神像をビカビカに
みがきに行こうと
思ってたんだ!

どうしよう
気持ち悪い



俺がそんな地図見て
道順示せるとでも
思ってたのか？

お前は
方向オンチ
だからな

ちげーよ
親分っ



俺も誘えよ
アドル！

案内役は
まかせろ！



ドキ……

あたしも行くっ！



リリア!?

なんで
ヤローども
盗賊の家に!!?

手作り
手作り

女子の手作り
おかしい

あたしも冒険
できるのよ

なんせイースの
中樞まで行った
ことあるんだから！



「女神の指輪」
に守られてた
おかげだろ？

魔物がよって
こなけりや
俺だつて楽勝
だつーの

筋肉さんは
だまってる！



一週間くらいなら
お母さんも許して
くれるから
大丈夫！

ねいいでしょ
アドルさん



一週間じゃ
ここには
戻れないよ

リリア



一ヶ月か
年か

それも
わからない



僕は
色々なものを
見て回りたいんだ



火山を見ることが
できたら
今度はその近くにも
行きたい

そして次に見える
景色の場所にも
行ってみたい



でも
エステリアの様な
小さな島でも
色々なことがあつて

こんなにも長く
とどまることになつた！

これから
行く場所だつて
きつと
同じくらい

もしかしたら
もっと時間が
かかるかもしれない

そんな
勝手気ままな旅に
リリアをつきあわせる
ワケにはいかない

ごめん

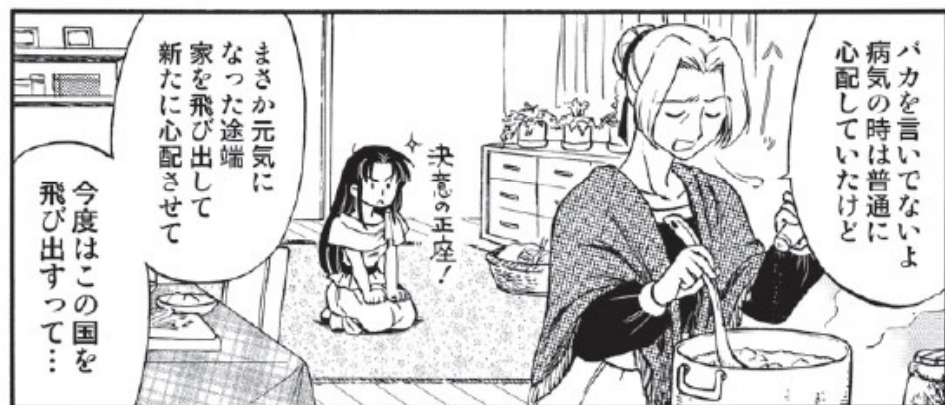
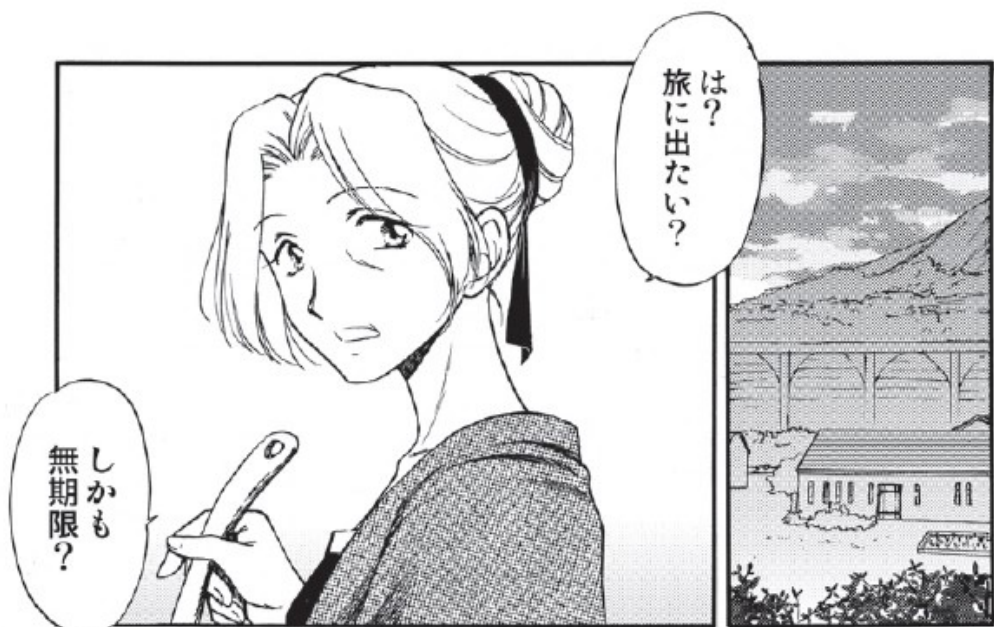
アドルさんは
もうここには
帰ってこないの？

僕の故郷は
ここじゃないよ

まあ故郷にも
全然帰って
ないんだけどさ

俺もだつての

あはははははは



僕は立ち止まったら
ダメなんだ

フィーナがくれた
この静けさに
甘えてはいけない

前に進むんだ――

魔物がこの地から消えて
何日たっただろう

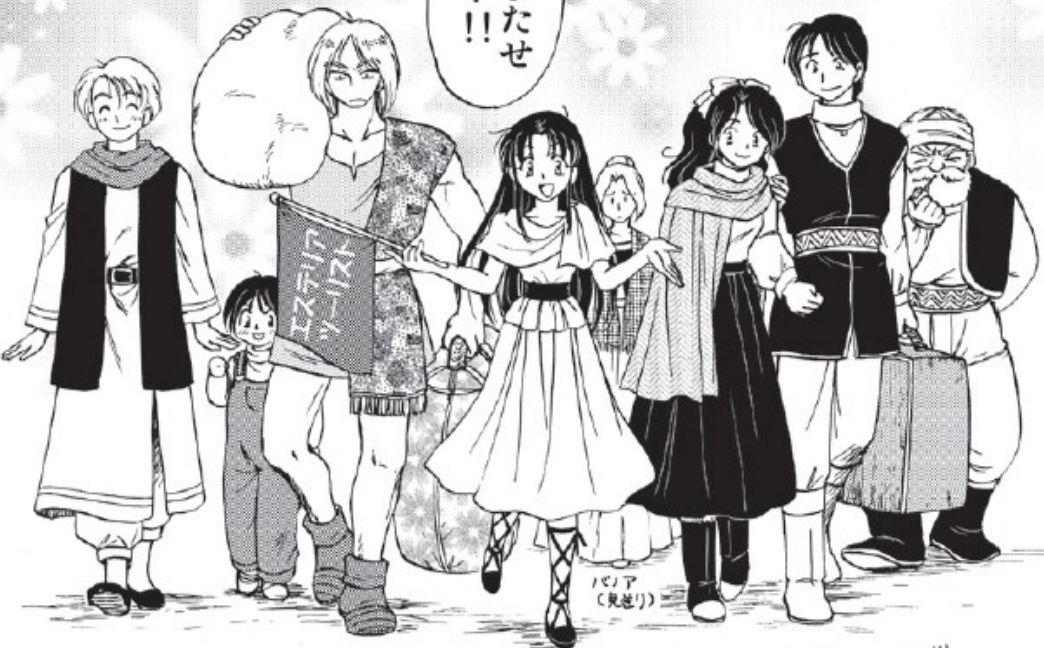
こんな夜に二人でいても
静かだ――

嫌でも
考えてしまう

フィーナ……

ぞろ ぞろ ぞろ

おまたせ
—!!



ルタさん (見送り) タルア (見送り) キース (荷物持ち) リリア (リア-コンダクター) マリア (妻) サダ (夫) ハダト (監視)



な何だ
そいつらは!?

まあ保護者
代わりと
いうワケね

新婚
たのこ...

一週間なら
お母さんもいいって
言ったし!

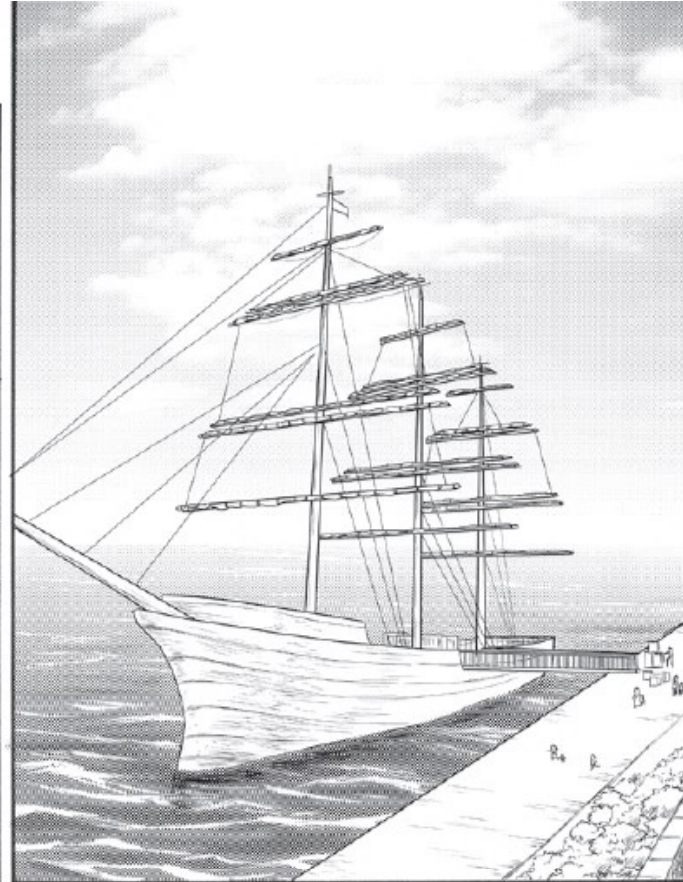
あたしマリアさんの
新婚旅行を引率
することになったの!



そうだよ

なんだアドル
荷物はそれだけ
かよ?

見えぬぞ
おい



アドルさ——ん

餓別は
やるからよ

ありがとな
親分!

今がつかい
するさき



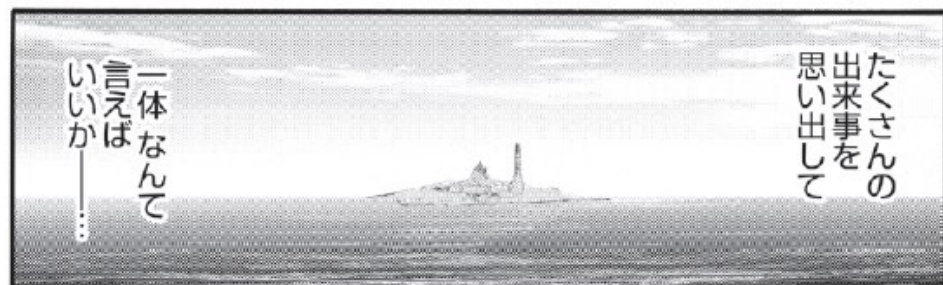
手土産は一つに
しておけば
全部置いていけ

俺は故郷への
手土産が多くて
こんなんだぜ!

ばん ばん
えー!

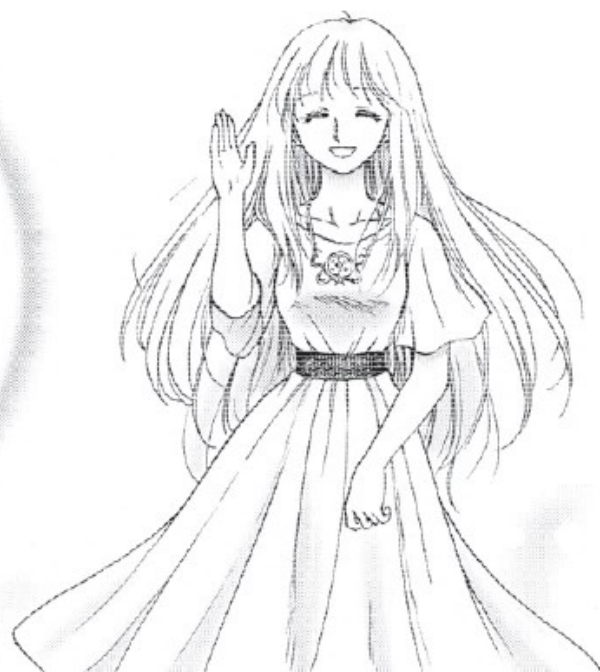


エステリアが
遠ざかっていく



たくさんの
出来事を
思い出して

一体なんて
言えは
いいか――



いってらっしゃい



…はい

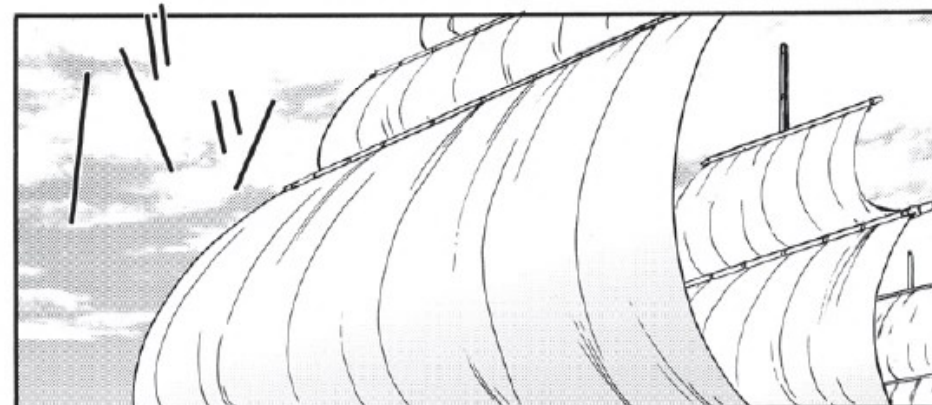


私船って
初めて――！

私達は
港に着いたら
東の街に向かうから
そこでお別れに
なるけど

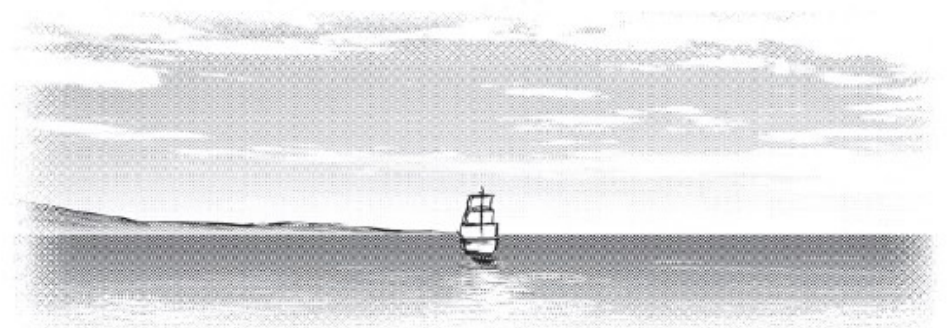
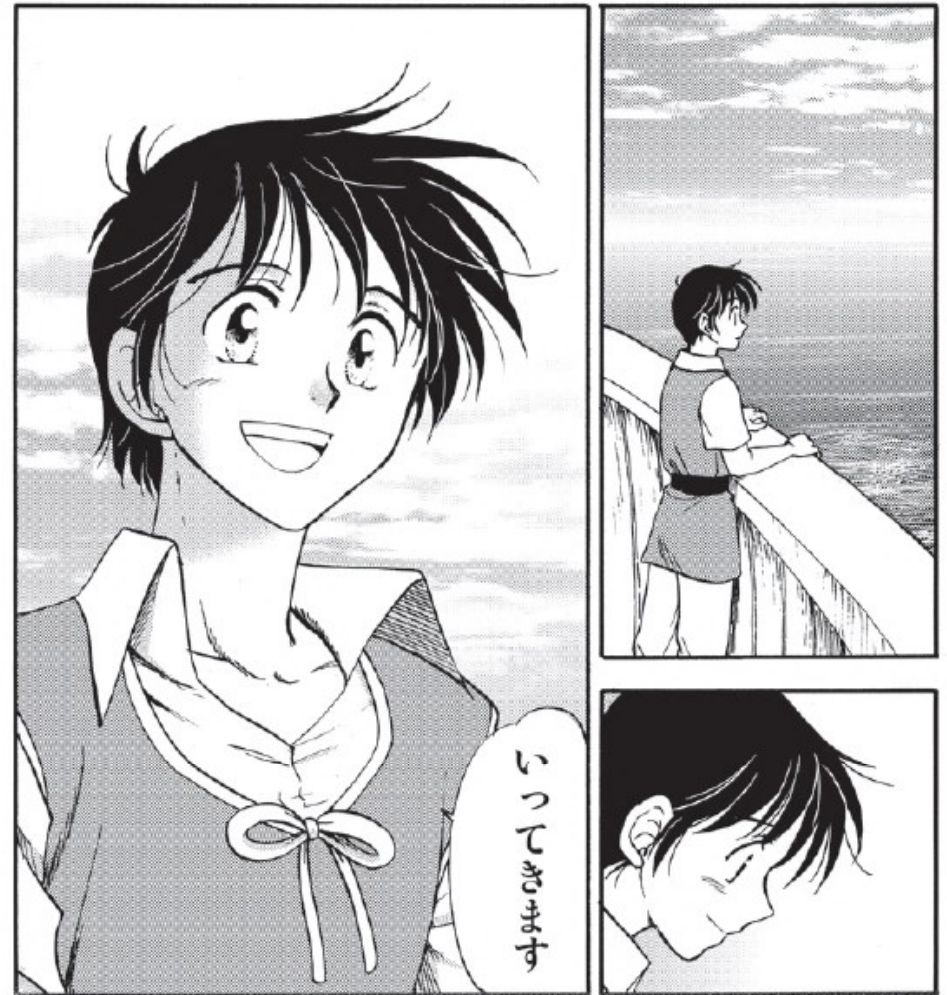
それまでは
皆で楽しく
行きましょう？

こんなに
大きいのに
どうして水に
沈まないの？



おかーさん
おかーさん
いってきまーす

ムチャなこと
するんじや
ないわよー



Fin